



2013年9月8日～13日参加

福岡大学3年 朋美さん

カンボジアに着いて、私が最初に感じたことは、意外に発展している！！ということでした。そこに行くまで私は、道路もろくに舗装されておらず、電気もあまり通っていないというイメージを持っていました。しかし、道路脇には街灯もあり、標識もあり、大きな看板広告もありました。また、大きくてきれいなホテルや、日本でも見かけるようなお店がたくさん立ち並んでいました。

しかしながら、その驚くべき発展もシムリアップという観光都市であるからということも、後々感じることになりましたし、すごく発展しているように見えても、衛生状況や人々の暮らしは、まだまだ良いものだとは言えないと感じました。さらに、中学校近くの地雷被害者のお宅を訪問する際、地雷が100%ないとは言いきれないか

ら、人が通ったところを歩くよう、中学校の敷地外の草むらに立ち入らないよう言われたときは、ここの人々が今なお地雷と隣り合わせで暮らしているという現状を肌で感じました。中学校では、先生1人に対する生徒数の多さや、先生という職業の賃金



は安いので、先生がアルバイトをしているということに大変驚きました。

カンボジアを訪れて、もっともショックを受けたことが2つあります。1つ目は、私たちと同年代の地雷被害者の方が、将来何をしたいか？という質問に対して、わからない、考えていないと答えたことです。2つ目は、私よりはるかに年下の子どもたちが物売りをしていたり、お店で働いていたことでした。日本人の私たちからすると、将来の夢や希望があって当たり前、子どもは学校に行って当たり前だと思ってしまうのですが、それらは豊かさの上に成り立っているのだと感じ、また、貧しさが希望を見せさせないのではないか、貧しさが子供たちを働かせるのだと感じました。

一方、カンボジアでいいなと感じたこともありました。それは、勉強している子ども達のキラキラした目と好奇心です。私は、中学校で同じ班の子たちに、私の名前を漢字で書いて紹介したり、子ども達の名前をカタカナで書いてみせたり、だるま孤児院では、木琴のようなカンボジアの伝統的な楽器で日本の曲と一緒に演奏していました。すると子ども達が、これは日本語でどう言うの？どう書くの？、見てみて、出来たよ！他にも教えて！と、とても生き生きと、そのパワーで圧倒されました。きっと授業もこのような様子なのだろうと思うと、学校の授業を時に居眠りしながら、ぼろっと受けていた自分を恥ずかしく思いました。



今まで、私は、海外ボランティアというものに興味はありましたが、英語もろくに話せない、かと言って日本語にもそれほど自信がない、ましてや、専門的な技術なんて何一つ持っていない自分に何ができるのだろうと思い、いつも参加を諦めていました。しかし、このスタディツアーに参加させていただいて、自分にもできることを1つ見つけました。それは、伝えるということです。カンボジアから帰り、家族や親せ



き、友達やアルバイト先の人たちまで、
色々な人にカンボジアでのことを聞かれ、
また話しました。私が見てきたものは、
カンボジアのほんの、ほんの一部である
し、私なりの解釈でしか伝えられませんが、
周りの人たちが少しでも関心を持ち、
少しでもカンボジアのことを知ってくれ

れば、それは今の私にできるボランティアと言えるのではないかと思います。また、
何か専門的な技術を身につけて、カンボジアだけでなく様々な国へ行って、その国の
暮らしや、文化を教えて頂きながら、その国の人々が、より安全に、より健康に、夢
を持って生活できるように何かお手伝いのできたらいいなと思います。

まだまだ書きたいことはたくさんありますが・・・

最後に、このカンボジアスタディツアーを企画して下さった CMC さんはじめ、現
地駐在員の曾田さん、ガイドの Ann さん、バスの運転手さん……等、ツアーに関わ
って下さった、また現地で出会ったたくさんの方々に感謝します。

ぜひ、またカンボジアに行きたいです。